

『森のきのこ』 絵本図鑑シリーズ

小林路子/作・絵

岩崎書店 (1991/11)



西緑地の山側の斜面に足を踏み入れたことがありますか？かさこそ、と落ち葉を踏んで歩いていくと、葉の下に真っ赤なきのこが顔を出していることがあります。『森のきのこ』を見

てみましょう。あつた、あつた、これはタマゴタケ。

『森のきのこ』を見ていると、きのこってこんなに美しかったの？とその造形のすばらしさにびっくりします。ところどころに妖精や動物たちも描かれ、自分も妖精になってきのこの下に住んでいるような、楽しい気持ちになってきます。本当に、きのこの仲間には、丸く輪になって生えるものがあり、その輪をフェアリーリングと呼んでいるのです。その輪の中で、夏の夜に妖精が踊るのだとか。林の中で実際にフェア

リーリングを見つけたときには、妖精の秘密を見てしまったような気がして、ドキドキしました。

「毒きのこのみわけかたの迷信」のページでは、毒きのこ、それによく似た食べられるきのこを対比させながら、見分け方といわれているものが実は当てにならないことを教えてくれます。きのこは食べるのではなく、見て楽しんだほうが無難ですね。

西緑地のきのこに関しては、西緑地の植物のページ

(<http://home.a03.itscom.net/ryokuchi/shokubutu/shokubutu.html>)に、アミガサダケとツチグリの絵が掲載されています。どちらも、とてもおもしろい形をしています。

本を片手に、ぜひ西緑地を散歩してください。他にもいろいろなきのこが見つかるでしょう。